

令和4年度 防災・減災に関する県民意識調査結果

1 調査の目的及び集計結果の概要

(1) 調査の目的

- 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の令和4年度の実績の把握
- 運動を進める上での課題の抽出や、その解決方策の検討

- (ア) 対象者 : 県内在住の満18歳以上の男女5,000人
 (イ) 調査期間 : 令和5年2月21日(火)～3月17日(金)
 (ウ) 有効回答数 : 2,131件 (回答率42.6%)

(2) 集計結果の概要

① 全体指標

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R4 (目標)	R7 (目標)
	R4 (2月)	R5 (2月)		
5つの行動目標(②)を全て実践している人の割合	22.8%	26.3%	32.0%	50.0%
避難の準備行動(①かつ②)ができている人の割合	4.0%	8.4%		

【参考】「避難の準備行動ができている」の構成要素

①	【行動する】	マイ・タイムラインの作成
②	【知る】	災害の種類に応じた、避難場所・避難経路の確認
	【察知する】	災害リスク情報を自ら入手するためのツールを確保
	【行動する】	防災教室・防災訓練への参加
	【学ぶ】	非常持出品を用意し、かつ3日以上以上の食糧及び飲料水を備蓄

② 個別指標

行動目標	行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R4 (目標)	R7 (目標)
		R4 (2月)	R5 (2月)		
知る	災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	70.7%	72.4%	87.4%	100%
	水害・土砂災害リスクの認知度	76.4%	70.2%	87.0%	100%
察知する	災害リスク情報を自ら入手するためのツールを確保している人の割合	76.5%	77.1%	50.0%	80.0%
行動する	マイ・タイムラインを作成している人の割合	6.8%	13.0%	36.0%	60.0%
行動する・学ぶ	防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	38.0%	46.2%	50.9%	60.0%
備える	非常持出品を用意し、かつ3日以上分の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	45.9%	55.8%	60.8%	70.0%
	家具等の転倒防止を行っている人の割合	56.7%	56.9%	59.0%	70.0%

2 集計結果の分析等

調査の集計結果について、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の委員である有識者2名から、防災や社会心理学の観点での分析や示唆をいただいた。

(有識者) 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 坂田 桐子 氏(社会心理学)

山口大学大学院創成科学研究科 准教授 瀧本 浩一 氏(防災)

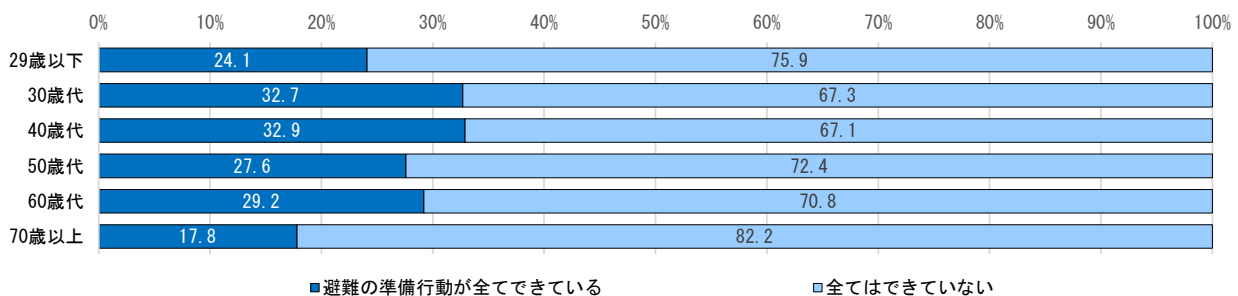
3 行動計画に掲げる成果指標ごとの分析概要

(1) 全体指標

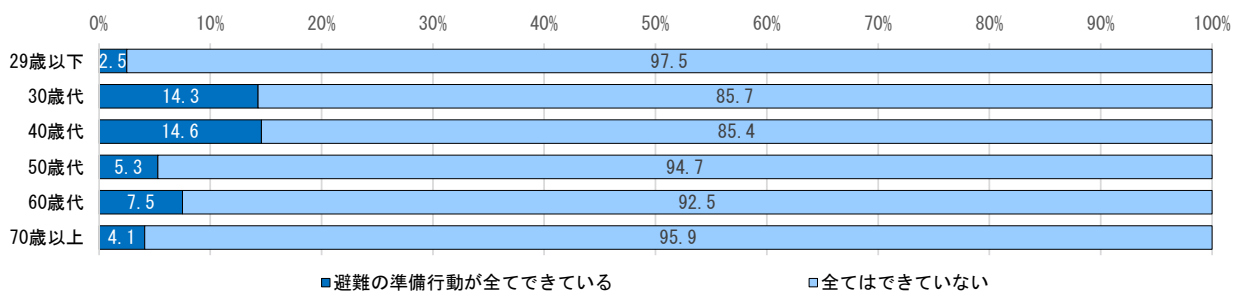
行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R4 (目標)	R7 (目標)
	R4 (2月)	R5 (2月)		
5つの行動目標(②)を全て実践している人の割合	22.8%	26.3%	32.0%	50.0%
避難の準備行動(①かつ②)ができている人の割合	4.0%	8.4%		

- 5つの行動目標を全て実践している人の割合について、年代別では「40歳代(32.9%)」、「30歳代(32.7%)」で高くなっている。
- 避難の準備行動ができている人の割合は全体的に低い、「40歳代(14.6%)」、「30歳代(14.3%)」では高くなっている。

<5つの行動目標を全て実践している人の割合「年代別」>



<避難の準備行動ができている人の割合「年代別」>



ア 有識者による分析や示唆など

- 全体的には、まだ低いレベルだが、昨年度と比べて、避難の準備行動ができている人の割合が倍に増えたことは望ましい変化である。特に子育て世代での割合が高いことから、小学校等で子供が受けた防災教育の知識が、保護者や家族に波及していると推測される。今後は、他の年代の避難の準備行動を促進するため、職場での啓発などを推進することが効果的と思われる。

- マイ・タイムラインの作成については、広報・啓発を背景に、作成率が伸びたのではないかとと思われる。また、コロナ禍の行動制限が解除され、社会活動が徐々に元に戻ってきたことが、防災教室・防災訓練への参加率を上昇させたと言える。
- 令和4年度において、県内で土砂災害による顕著な被害が発生していない。災害が発生しない期間が続くほど、災害への意識は薄れ、行動へのモチベーションも低くなると考えられる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 避難の準備行動ができている人の割合は、5つの要素（個別指標）によって構成されているため、個別指標の項目において、取組等を記載する。

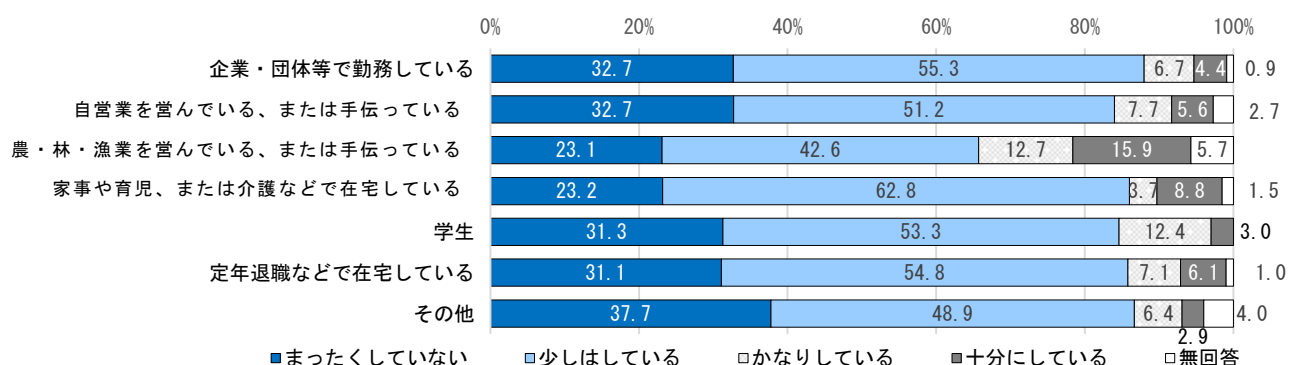
（２）【行動目標】身の回りの災害危険個所などを「知る」

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R4 (目標)	R7 (目標)
	R4 (2月)	R5 (2月)		
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	70.7%	72.4%	87.4%	100%
水害・土砂災害リスクの認知度	76.4%	70.2%	87.0%	100%

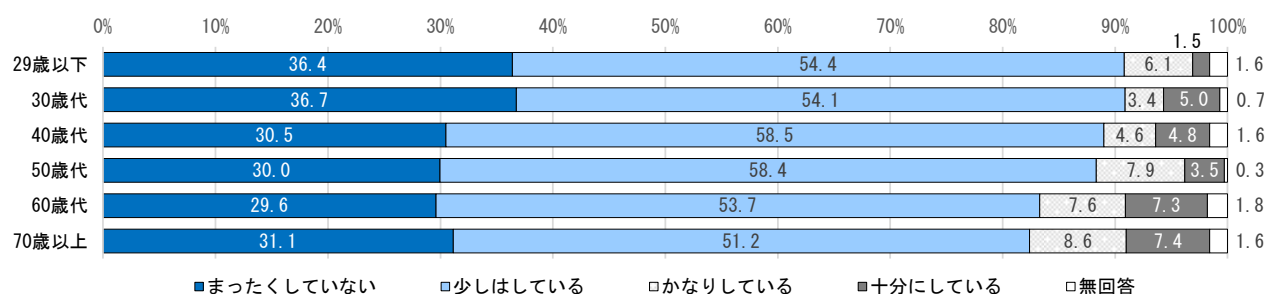
- 避難場所・避難経路を確認した人の割合について、生活形態別（※）では、「家事や育児などで在宅(75.3%)」が最も高く、次いで「農林漁業(71.2%)」となっている。また、生活形態別では、「企業・団体勤務(32.7%)」、「自営業(32.7%)」が高くなっている。
- 災害の危険性を確認する際に困っていることでは、「どうやって確認するか分からない(38.1%)」が最も高く、次いで「調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい(25.1%)」となっている。
- 水害・土砂災害リスクの認知度について、年代別では50歳以上で7割超と高くなっており、29歳以下では低くなっている。

※ 生活形態の分類 ～ 「企業・団体勤務」、「自営業」、「農林漁業」、「家事や育児で在宅」、「学生」、「定年退職などで在宅」

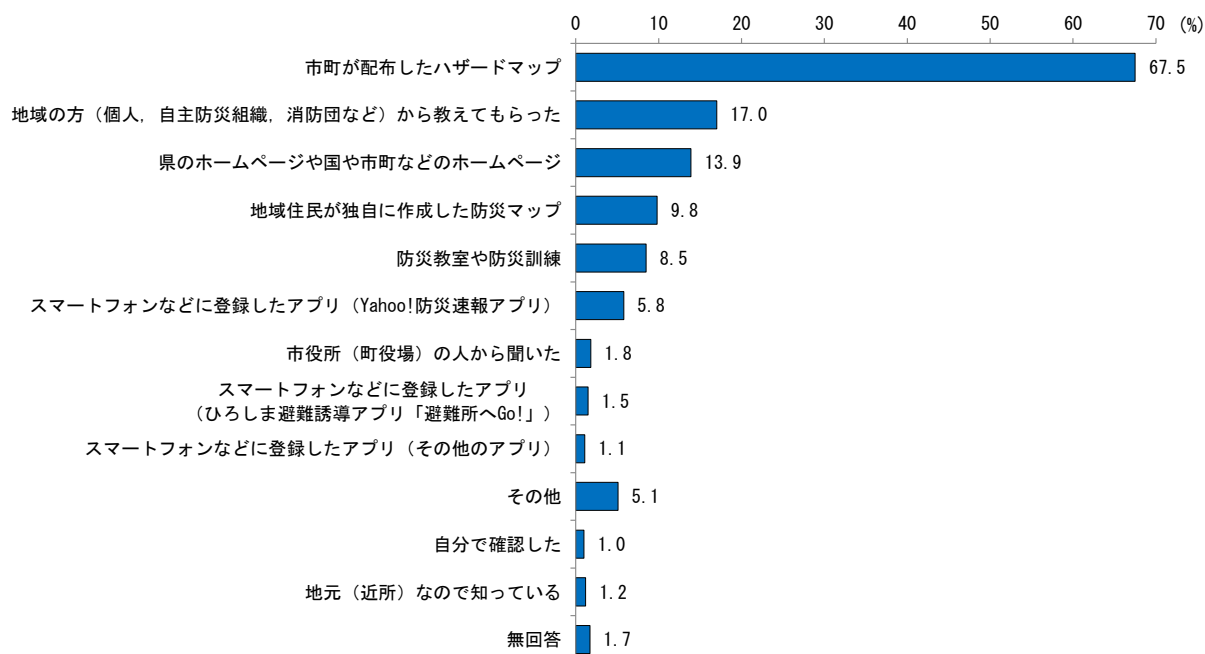
<避難場所や避難経路の確認の有無「生活形態別」(Ⅱ：問7)>



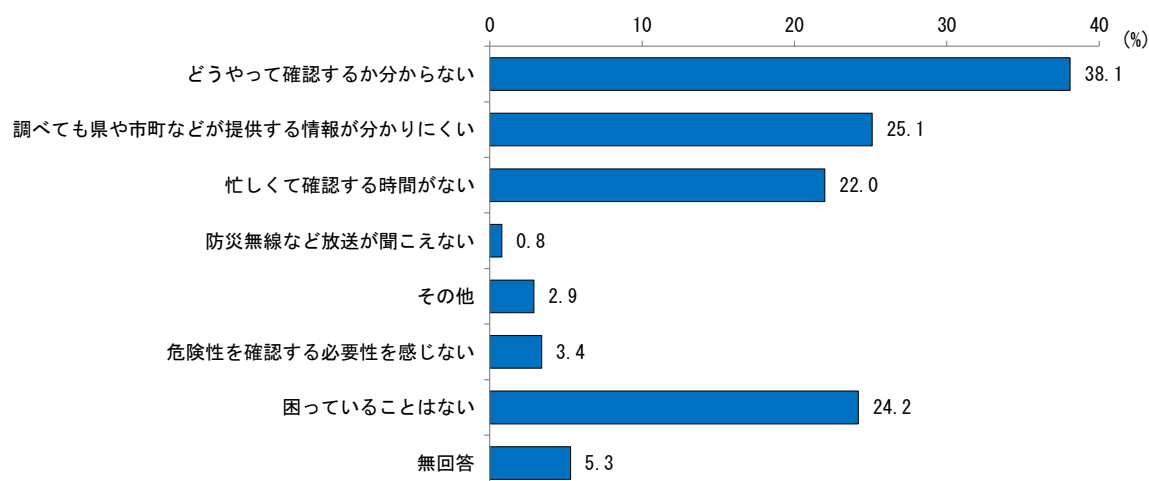
<避難場所や避難経路の確認の有無「年代別」(Ⅱ：問7)>



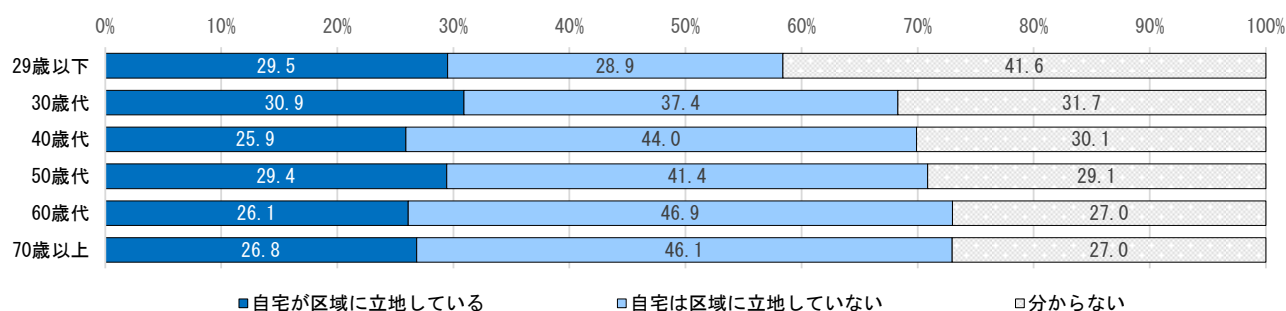
<避難場所や避難経路の確認方法(Ⅱ：問7-2)>



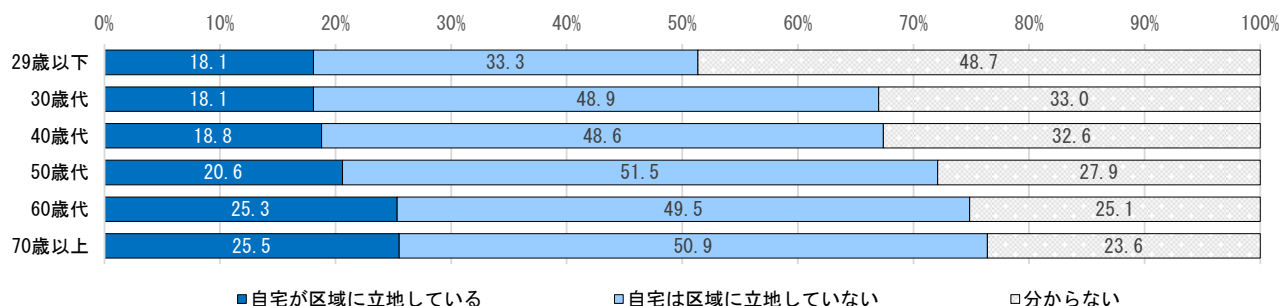
<災害の危険性を確認するに当たって、困っていること（Ⅰ：問８）>



<洪水浸水想定区域の認知度「年代別」（Ⅱ：問６①）>



<土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の認知度「年代別」（Ⅱ：問６②）>



ア 有識者による分析や示唆など

- 昨年度に比べて、水害・土砂災害リスクの認知度が低下しているが、年代や生活形態による特徴が見られるわけではなく、全体的に少しずつ低下している。引き続きハザードマップなど、災害の危険性を確認する方法を啓発する必要がある。

- 自宅周辺の水害・土砂災害リスクが「分からない」と回答した人の割合は、年代が若いほど高くなっている。回答傾向を見ると、29 歳以下や 30 歳代の人々は、他の年代と比べて、地域の人から危険性について教えてもらった経験が少なく、自分でパソコンを使ってウェブページに掲載されているハザードマップを見たり、学校で教えてもらったり、家族から聞いたりすることで知った人の割合が高い。このため、引き続き学校や職場での啓発を行うと共に、「自宅の危険性について調べたくなるきっかけ」を提供することが必要である。
- 避難場所や避難経路の確認方法では、ハザードマップの利用が最も多くなっている。マスコミや行政の広報により、ハザードマップの認知が定着しつつある傾向と思われる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 引き続き、住民の目に触れる機会が多い小学校や公民館等へ、災害リスクや避難所等を示した標識の設置を進めるとともに、小中学生を対象とした出前講座において、災害リスクに関心をもたせる VR や AR などの教材を活用していく。
- 自主防災組織が実施する防災訓練の中で、ハザードマップを掲載した地域防災タイムラインを活用することにより、平時における地域の水害・土砂災害リスクの確認を促進する。
- 学校や企業を通じた啓発やイベントでの周知、各種メディアを活用したマイ・タイムラインの普及促進を通じて、ハザードマップによる自宅周辺の災害リスクの確認を促進する。

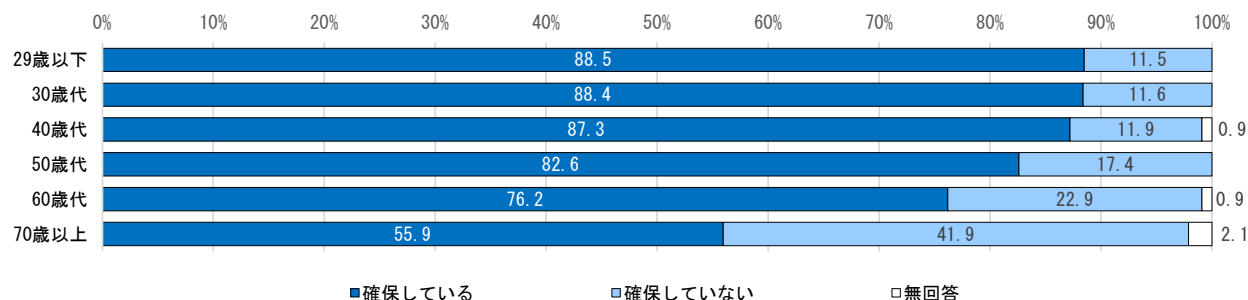
(3)【個別指標】災害発生の危険性をいち早く「察知」する

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R4 (目標)	R7 (目標)
	R4 (2 月)	R5 (2 月)		
災害リスク情報を自ら入手するためのツール(※)を確保している人の割合	76.5%	77.1%	50.0%	80.0%

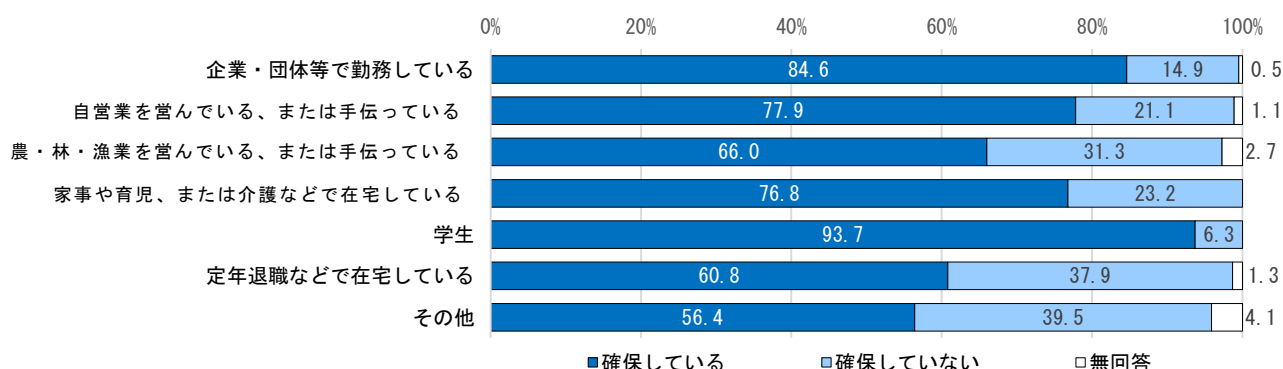
※防災情報メールや防災情報アプリ、SNS など

- 災害リスク情報を入手するためのツールを確保している人の割合について、年代別では「29 歳以下(88.5%)」、「30 歳代(88.4%)」、「40 歳代(87.3%)」で高くなっており、生活形態別では「学生(93.7%)」で高くなっている。

<災害リスク情報の入手ツールの確保「年代別」(Ⅱ：問9)>



<災害リスク情報の入手ツールの確保「生活形態別」(Ⅱ：問9)>



ア 有識者による分析や示唆など

- 年齢が上がるほど、ツールを確保していると回答した人が少なくなっている。スマートフォンやパソコンの操作が前提となる場合があるため、高齢者には仕方がない部分ではあるが、周囲の人が情報を提供し、支援するための仕組みづくりが重要と考えられる。
- 全世代に向けた継続的な広報・啓発等の働きかけが必要であるが、特に情報の入手ツールの準備ができていない層に向けての広報戦略を検討する必要がある。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

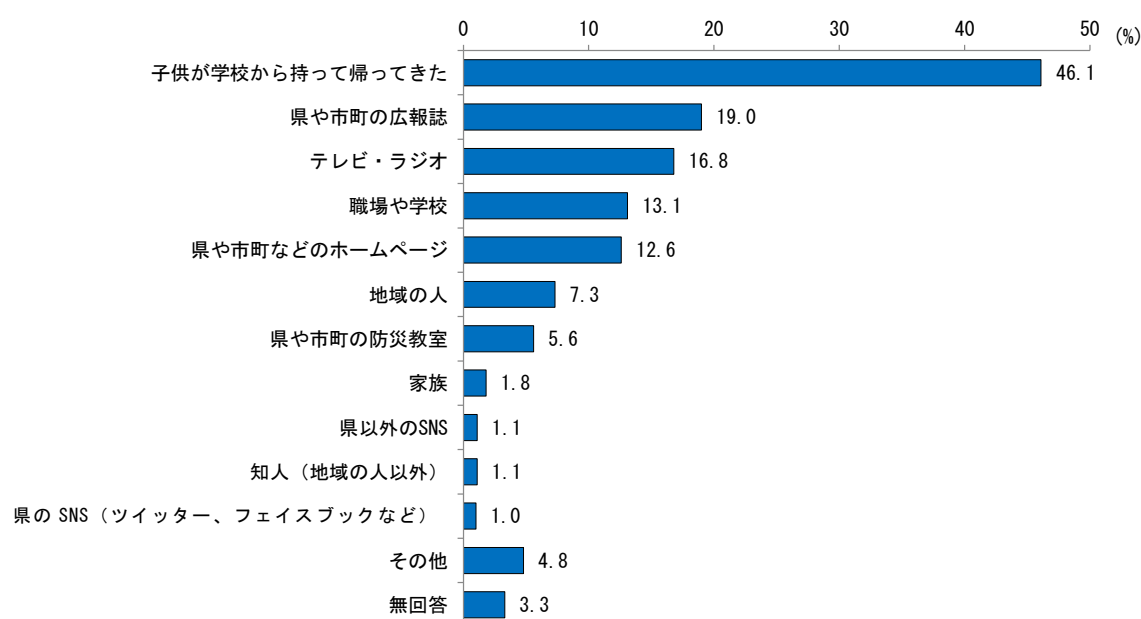
- 情報入手ツールの確保が難しい高齢者等に対しては、引き続き自主防災組織による避難の呼びかけ体制の構築に取り組む。さらに、地域防災タイムラインの活用により、自主防災組織における呼びかけ体制の構築、維持・充実とマイ・タイムライン作成を一体的に進め、地域全体での適切な避難行動を促進する。
- 防災タイムラインを普及することにより、災害の危険性が高まった際のプッシュ通知機能の活用を促進する。
- 広報誌や折り込みチラシ、SNS等の様々な媒体を通じて、災害への備えや広島県の災害リスクなどの情報を積極的に発信していく。

(4) 【個別指標】自ら判断して適切に「行動する」及び
防災教室や防災訓練などで「学ぶ」

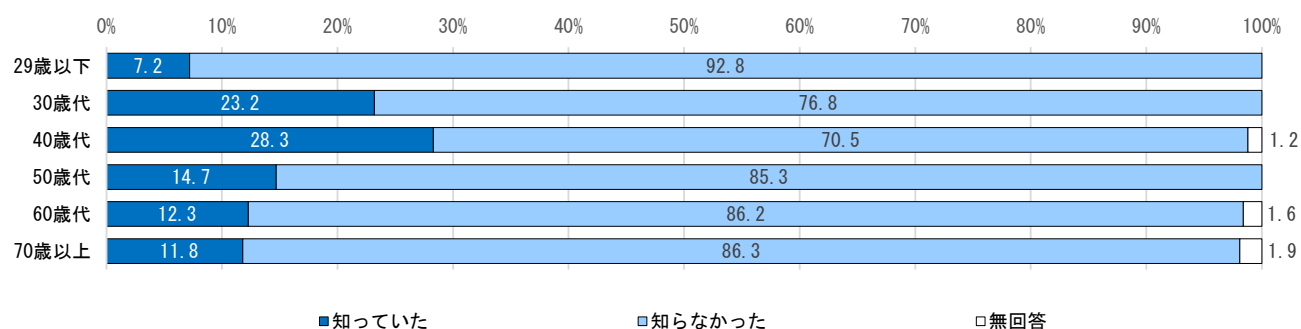
行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R4 (目標)	R7 (目標)
	R4 (2月)	R5 (2月)		
マイ・タイムラインを作成している人の割合	6.8%	13.0%	36.0%	60.0%
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	38.0%	46.2%	50.9%	60.0%

- マイ・タイムラインを知ったきっかけは、「子供が学校から持って帰った(46.1%)」が最も高く、次いで「県や市町の広報誌(19.0%)」となっている。
- マイ・タイムラインを作成していない理由は、「知らなかった(64.7%)」が最も高く、次いで「自宅が安全な場所にある(15.8%)」となっている。
- 防災教室・防災訓練への参加割合は、「定年退職などで在宅(38.9%)」している方が低くなっている。
- 防災教室・防災訓練に参加しなかった理由は、「実施していることを知らなかった(43.1%)」が最も高く、次いで「仕事や家事、育児で忙しかった(30.4%)」となっている。
- 参加しなかった理由で、「仕事や家事、育児で忙しかった」は「企業・団体勤務(40.9%)」で、「実施していることを知らなかった」は「農林漁業(49.6%)」で、他の生活形態に比べて高くなっている。

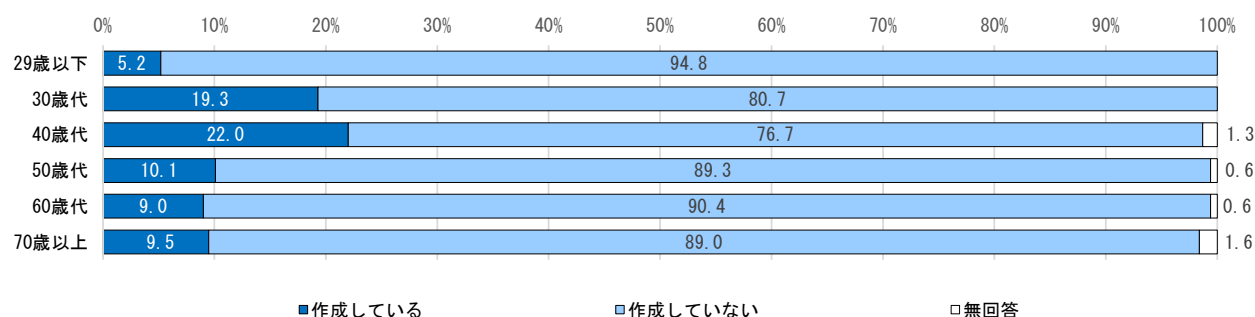
<「ひろしまマイ・タイムライン」を知ったきっかけ(Ⅱ：問3-1)>



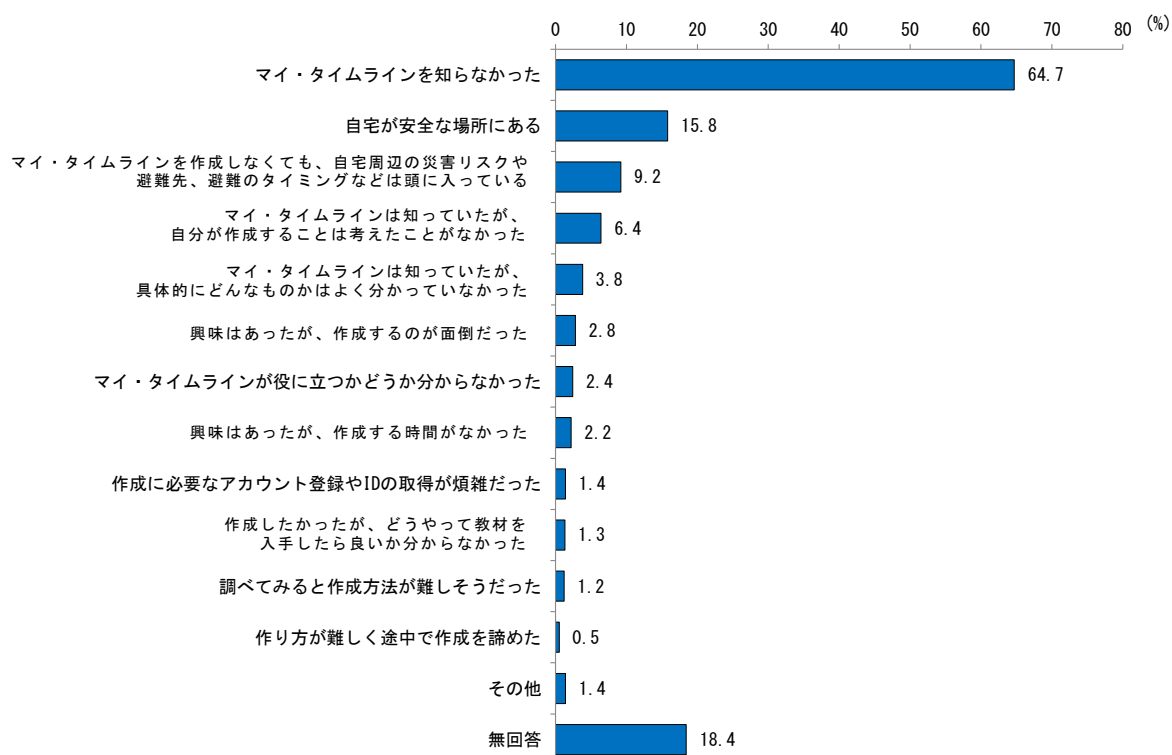
<マイ・タイムラインの認知度「年代別」(Ⅱ：問2)>



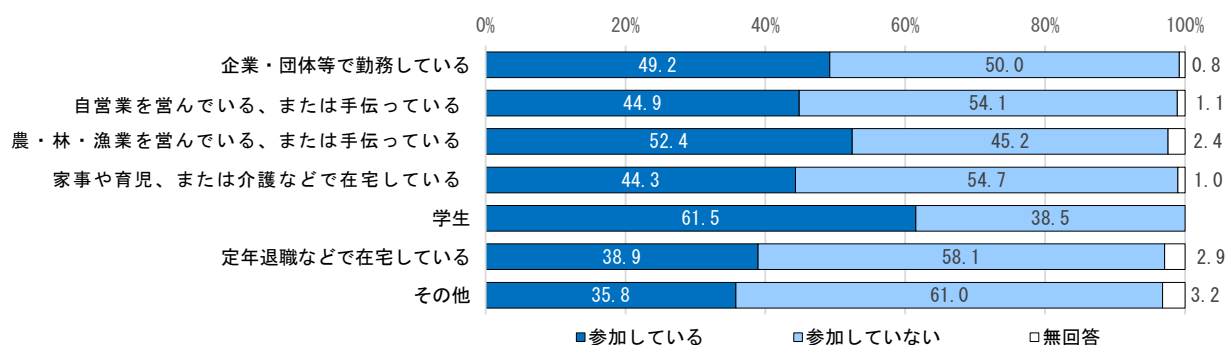
<マイ・タイムライン作成の有無「年代別」(Ⅱ：問4)>



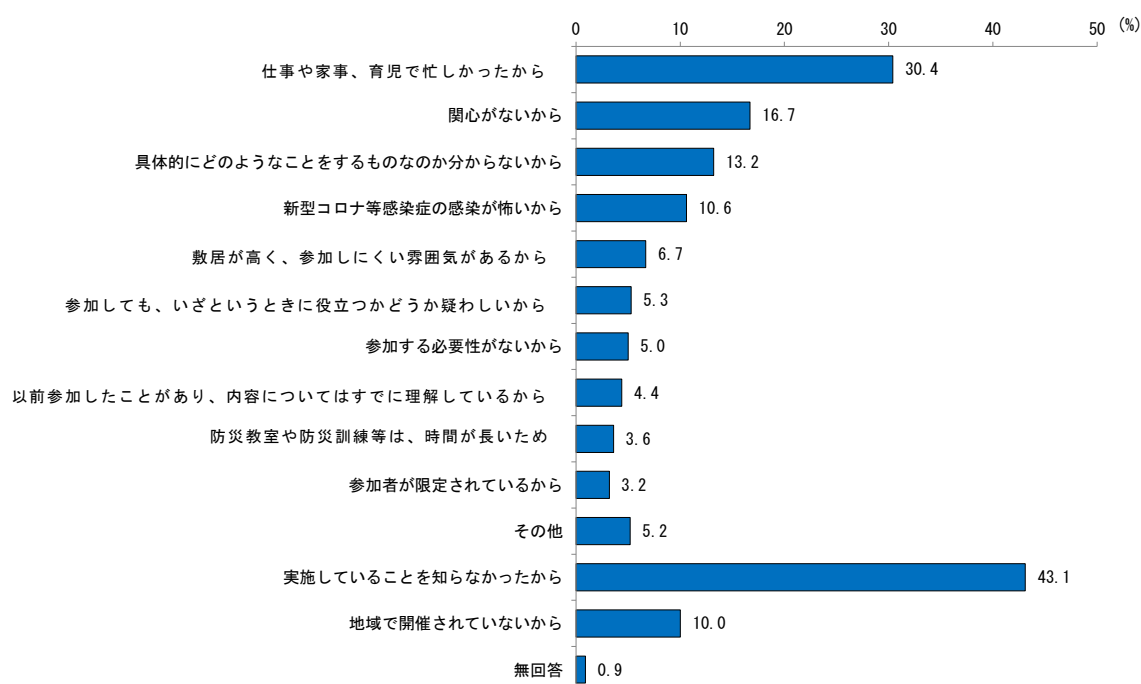
<マイ・タイムラインを作成していない理由(Ⅱ：問5)>



＜過去１年間における防災教室・防災訓練への参加状況「生活形態別」（Ⅱ：問 16）＞



＜防災教室・防災訓練に参加しなかった理由（Ⅱ：問 16-1）＞



ア 有識者による分析や示唆など

- マイ・タイムラインを作成している人の割合は明確に増加しており、「子供が学校から持って帰ってきた」ことがマイ・タイムラインを知る大きなきっかけとなっている。全体的には認知度が低いことから、「県や市町の広報誌」、「テレビ・ラジオ」、「職場や学校」などの手段を用いた周知を強化する必要がある。
- マイ・タイムラインを作成した人の中には、「災害が起こりそうな時に参考にしたら、適切な避難ができると感じた」、「作成する過程で防災に関する様々な知識を得た」と、有効性を感じている人が多いため、その事実を周知することも必要である。
- マイ・タイムラインについては、引き続き出前講座や研修等を通じて作成を支援するとともに、作成指導人材の育成にも力を入れるべきである。

- 防災教室・防災訓練へ参加した人の割合は、前回調査より増加しているが、参加しなかった理由として「関心がないから」が増加しているため、今一度防災訓練の必要性を啓発する必要がある。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

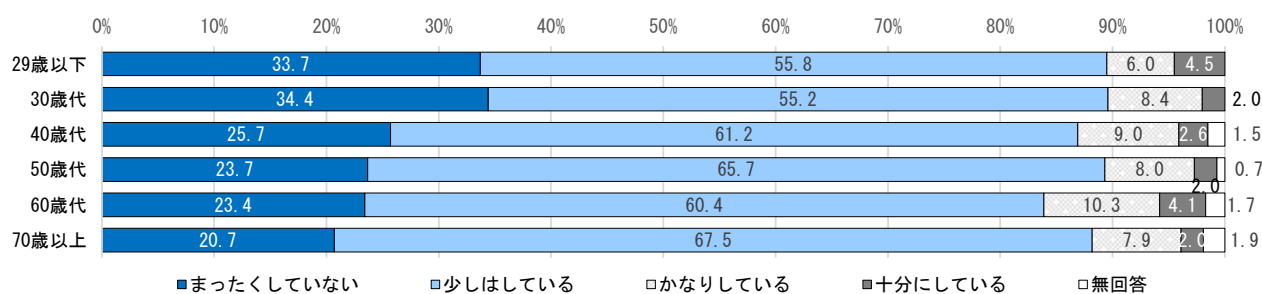
- 学校においてマイ・タイムラインを活用した防災教育が定着し、より多くの児童・生徒が作成に取り組めるよう、引き続きマイ・タイムライン推進員による出前講座に取り組むとともに、新たに、中学校でのデジタル技術を活用した防災教育の展開に取り組む。
- 地域防災タイムラインの作成にあたっては、自主防災アドバイザー等と連携し、自主防災組織における呼びかけ体制の構築、維持・充実とマイ・タイムライン普及促進を一体的に進める。
- 引き続き報道機関と連携し、様々な媒体によるマイ・タイムラインの認知度向上を図る。
- より簡易にマイ・タイムラインを作成できるよう、LINE を活用したツールを展開する。
- 関係団体を通じて、一斉防災教室・一斉地震防災訓練への企業等の参加を働き掛ける。
- 「みんなで減災推進大使」を活用した防災教室・防災訓練などにより、参加者の増加を促進する。

(5) 【個別指標】非常持出品等を準備するなど災害に「備える」

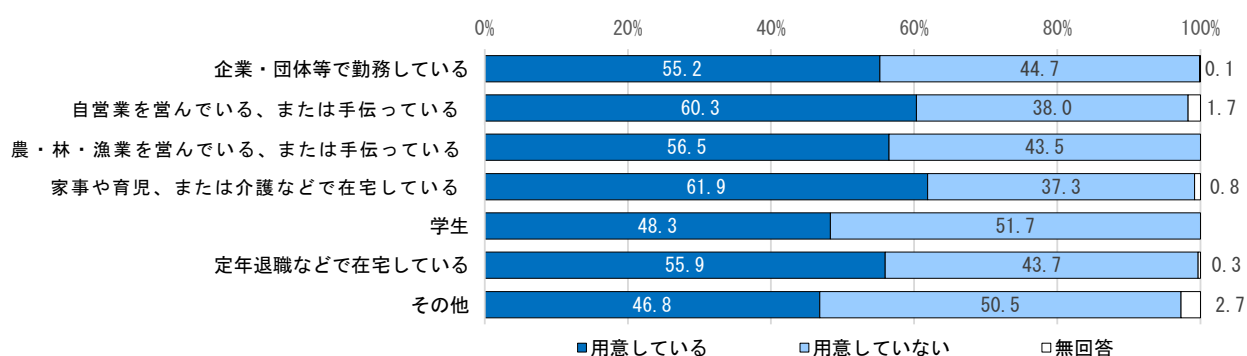
行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R4 (目標)	R7 (目標)
	R4 (2月)	R5 (2月)		
非常持出品を用意し、かつ3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	45.9%	55.8%	60.8%	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	56.7%	56.9%	59.0%	70.0%

- 非常持出品を用意している人の割合は、「29 歳以下(66.3%)」、「30 歳代(65.6%)」を除く全ての年代で7割を超え、男女別でも大きな差は見られない。
- 備蓄を行わない理由は、「何をどれくらい備えれば良いか分からない(36.7%)」が最も高く、次いで「備えていても消費期限が来たら無駄になる(28.9%)」となっている。
- 家具などの転倒防止を行っていない理由は、「手間や費用がかかる(31.1%)」が最も高く、次いで「倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障がないところに置いてある(29.7%)」となっている。

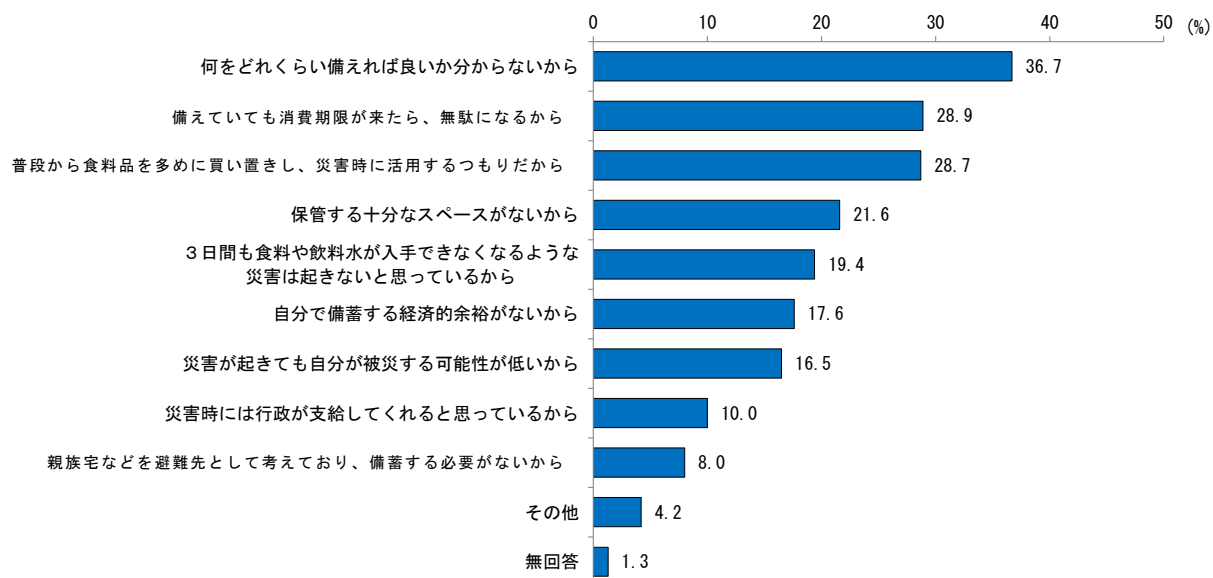
<非常持出品を用意している人の状況「年代別」（Ⅱ：問 14）>



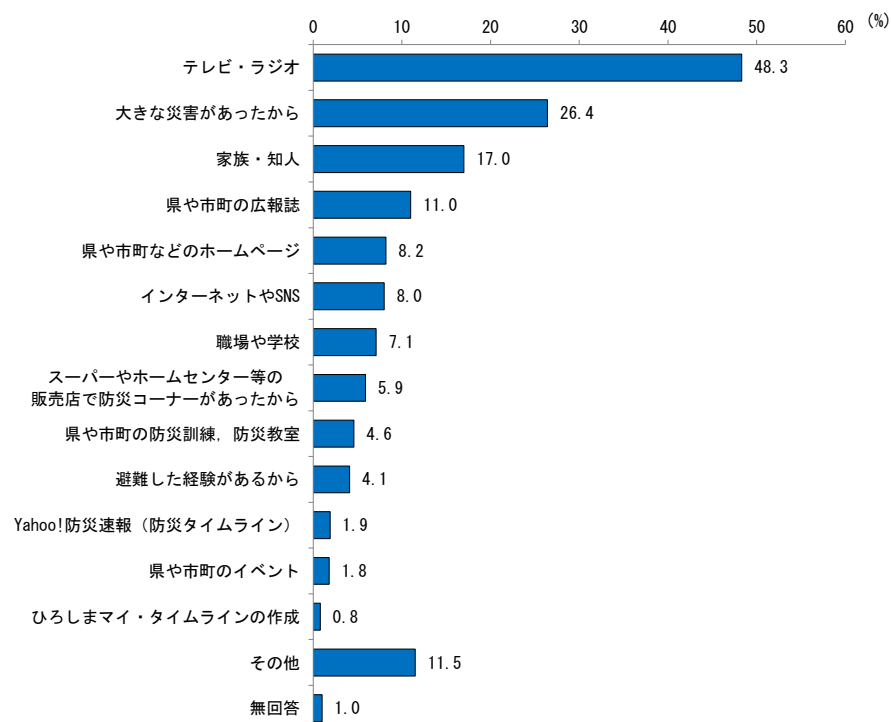
<非常持出品を準備し、かつ3日以上食料品等の備蓄を用意している人の割合「生活形態別」（Ⅱ：問 13・問 14）>



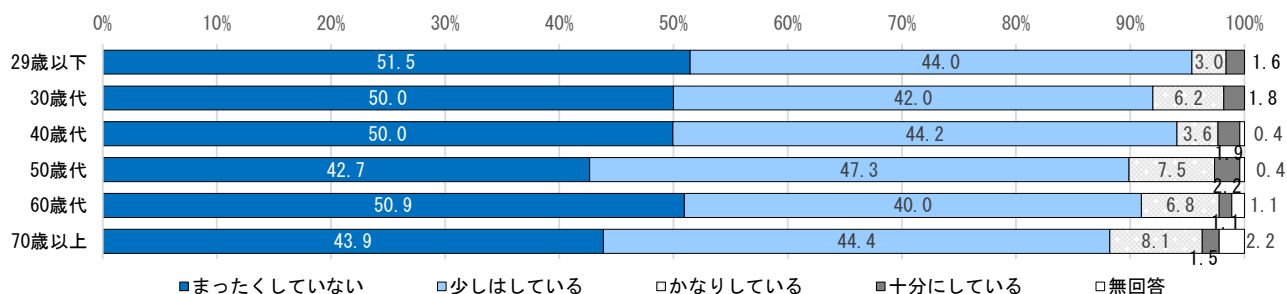
<備蓄を行わない理由（Ⅱ：問 13-1）>



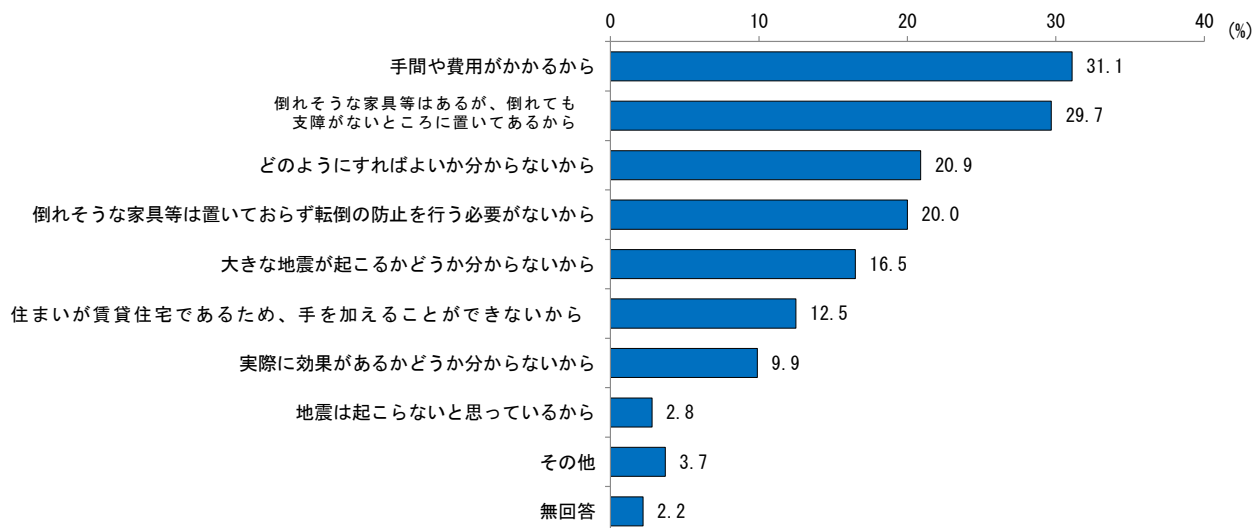
< 備蓄を行ったきっかけ（Ⅱ：問 13-2） >



< 家具などの転倒防止の実施状況「年代別」（Ⅱ：問 17） >



< 家具などの転倒防止を行っていない理由（Ⅱ：問 17-1） >



ア 有識者による分析や示唆など

- 備蓄をしていない理由として、「保管する十分なスペースがないから」と回答している人については、ローリングストック法の周知だけでなく、スペースをとらない備蓄法についても周知する必要がある。
- 非常持ち出し品については、情報源によって推奨している物品が様々であり、品数も多い場合があるため、分かりにくくなっている可能性がある。
- 転倒防止を行っていない理由として、「手間や費用がかかるから」と回答した人が最も多いことから、コストがかからない簡便な転倒防止法等についても周知する必要がある。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 引き続き報道機関と連携し、各種メディアや「みんなで減災推進大使」の活動等を通じて、災害備蓄品のローリングストック法や具体的品目・量、様々な商品の紹介、保存方法の工夫などの情報発信に取り組む。
- 「最低限必要な非常持出品」を必ず備えるよう、周知を図っていく。
- 小売店舗やホームセンター、家具販売店等の協力を得て、引き続き「備えるフェア」を実施し、来店者等に対して、備えの必要性の啓発や、非常持出品、備蓄品、転倒防止対策商品等の紹介を行う。
- 販売店や報道機関と連携し、転倒防止を行う必要性や、転倒防止対策商品の取り付け方法などを周知していく。

調 査 票

防災・減災に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃から県行政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

広島県では、平成 26 年 8 月の土砂災害の教訓を踏まえ、県民の皆様お一人お一人に、いつ、どこで起きるかも分からない自然災害から、ご自分の命を守るための行動をとっていただくことができるよう、平成 27 年 4 月から、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

この運動の推進にあたり、防災・減災に関する県民の皆様の意識や行動内容及び情報の入手手段などの実態を把握して、今後の防災・減災対策に活かすため、概ね年に一度、防災・減災に関するアンケートを行うこととしております。

このアンケートは県内にお住まいの 18 歳以上の方 5,000 人を選挙人名簿から無作為に選んで行うものです。調査で得た結果はすべて統計的に処理をし、調査以外の目的では使用いたしませんので、皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、自然災害による死者ゼロの実現を目指し、この取組を今後、さらに効果的に進めていくため、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和 5 年 2 月

広島県危機管理監みんなで減災推進課

ご記入にあたってのお願い

- 質問は、全部で約 60 問あります。ご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
ご本人の記入が難しい場合は、ご本人の意向を確認いただき、ご家族の方等がご記入ください。
- 調査票や封筒にあなたのご住所、お名前を記入する必要はありません。
- アンケートの所要時間は 15 分程度です。
- ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をしてください。選択肢で「その他」を選択した場合は（ ）内に内容を具体的にご記入ください。
- ご回答は、設問ごとに（○は 1 つ）（○はいくつでも）など指定されていますので、ご注意ください。
- 設問によって回答していただく方が限られる場合があります。説明文や矢印に従ってお進みください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で **3 月 17 日（金）** までに投函してください。返送先は調査の実施・集計を委託している株式会社サーベイリサーチセンターになります。

広島県危機管理監みんなで減災推進課

住 所：〒730-8511 広島市中区基町 10 番 52 号

電 話：082-513-2781

FAX：082-227-2122

Eメール：kikigensai@pref.hiroshima.lg.jp

I あなたの災害に対する意識とご経験についてお尋ねします

問1 あなたは、市町が指定している避難場所のイメージをどう持たれていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

避難場所のイメージ	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
①トイレが不便	1	2	3	4
②プライバシーがない	1	2	3	4
③風呂に入れない	1	2	3	4
④エアコンが効かない	1	2	3	4
⑤自由に使える電源がない	1	2	3	4
⑥飲食物が手に入らない	1	2	3	4
⑦要配慮者（子供や高齢者等）が居づらい	1	2	3	4
⑧授乳場所がない	1	2	3	4
⑨ペットを連れていけない	1	2	3	4
⑩不衛生である	1	2	3	4
⑪感染症（新型コロナウイルス感染症等）への対策がとられていない	1	2	3	4
⑫車での避難ができない	1	2	3	4

問2 あなたは、市町が指定している避難場所の設備の有無などについて、知っていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが 知りたい	知らないし 知る必要が ない
①駐車場の有無や駐車可能な台数	1	2	3
②洋式トイレの有無や数	1	2	3
③エアコン設置の有無	1	2	3
④水や食料、シートや毛布などの備蓄品の種類 や量	1	2	3
⑤テレビやラジオの有無	1	2	3
⑥ペットの受け入れの可否	1	2	3
⑦風呂やシャワー設備の有無	1	2	3
⑧非常用電源の有無	1	2	3
⑨プライバシーの確保	1	2	3
⑩Wi-Fi 環境の有無	1	2	3

【問2で①～⑩のいずれかで1つでも「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問2-1 問2で「1 知っている」と回答した項目について、どのような方法で知りましたか。
(○はいくつでも)

- 1 インターネット（広島県防災ウェブ）
- 2 インターネット（広島県「みんなで減災」はじめの一歩）
- 3 インターネット（市町ホームページ）
- 4 県や市町の防災情報メール
- 5 その他（ ）

【問2で①～⑩のいずれかで1つでも「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問2-2 避難場所の設備の有無等（問2-1で知った情報）について、該当する番号1つに○をつけてください。

- 1 現在の発信項目で十分
- 2 発信項目を充実させてほしい（下記に具体的な項目を記入）
（具体的な項目： ）

【全員にお尋ねします。】

問3 あなたは、市町が指定している避難場所で行われている、新型コロナウイルス感染症対策について、知っていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが 知りたい	知らないし 知る必要が ない
①アルコール消毒の準備	1	2	3
②検温の実施	1	2	3
③発熱者とそうでない人の分離	1	2	3
④「3密」を防ぐためのテントや間仕切りの導入	1	2	3
⑤ソーシャルディスタンスの確保	1	2	3
⑥定期的な換気の実施	1	2	3
⑦共用部分の定期的な清掃	1	2	3
⑧車中避難用の避難先の確保	1	2	3
⑨以前よりも多くの避難場所を開設	1	2	3
⑩以前よりも避難場所内の多くの部屋を開放	1	2	3
⑪定員の見直し	1	2	3

問4 あなたのお住まいの場所では、どのような災害の危険性が想定されているか知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っている → 問5～7へ
- 2 知りたいが知らない → 問8へ
- 3 知りたくない → 問8へ

【問4で災害の危険性について「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問5 どのような災害による危険性を認知されましたか。(○はいくつでも)

- 1 土砂災害
- 2 洪水による浸水
- 3 高潮による浸水
- 4 津波による浸水
- 5 地震に伴う家屋等の倒壊など
- 6 危険性はない

【問4で災害の危険性について「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問6 あなたのお住まいの地域の災害の危険性の有無をどのようなきっかけで知りましたか。

(○はいくつでも)

- 1 自分でパソコンを使ったり、人に聞いたりして調べた
- 2 家族に聞いた(話し合った)
- 3 地域の方(個人、自主防災組織、消防団など)に教えてもらった
- 4 地域の住民ではない友人や知人に教えてもらった
- 5 市役所(町役場)の人に教えてもらった
- 6 職場で教えてもらった
- 7 学校で教えてもらった
- 8 ひろしまマイ・タイムラインを作成する過程で知った
- 9 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムラインを作成する過程で知った
- 10 そのほかのマイ・タイムラインを作成する過程で知った
- 11 自ら災害を経験した
- 12 家族(親戚)・知人が災害を経験した
- 13 その他()

【問4で災害の危険性について「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問7 災害の危険性の有無を確認した方法をお答えください。(○はいくつでも)

- 1 県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ^(※)
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ^(※)
- 3 県の防災Webや市町のホームページなどで公開している震度分布図、揺れやすさマップ、土砂災害危険箇所図、土砂災害警戒区域図・特別警戒区域図、洪水・高潮・津波浸水想定区域図等
- 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 5 Yahoo!防災速報アプリ(防災タイムライン)
- 6 実際に地域を歩いてみた
- 7 その他()

※ハザードマップ: 自然災害(地震・津波・洪水・土砂災害等)による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

【全員にお尋ねします。】

問 8 災害の危険性の有無を確認するに当たって、困っていることをお答えください。

(○はいくつでも)

- 1 どうやって確認するか分からない
- 2 忙しくて確認する時間がない
- 3 調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 その他()
- 5 危険性を確認する必要性を感じない
- 6 困っていることはない

問 9 災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう、5段階の警戒レベルを用いた避難情報等が運用されています。あなたは警戒レベルを正しく認識し、ご自身がどの警戒レベルで避難しなければならないか分かりますか。(○は1つ)

- 1 認識しており、避難しなければならないタイミングが分かる
- 2 聞いたことはあるが、避難すべきタイミングは分からない
- 3 分からない

問 10 警戒レベルを用いた避難情報等が発令・発表されていますが、あなたは、事前に避難のタイミングを決めていますか。(○は1つ)

- 1 警戒レベル3（高齢者等避難）、警戒レベル4（避難指示）の避難情報で避難することを決めている
- 2 大雨・洪水注意報、大雨・洪水警報などの気象情報で避難することを決めている
- 3 水位などの周辺の状況で避難することを決めている
- 4 その他()
- 5 避難するタイミングを決めていない

【問 10 で 1 ～ 4 (避難するタイミングを決めている)のいずれかを回答した方にお尋ねします。】

問 11 避難のタイミングを決めたきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 自ら災害を経験した
- 2 家族(親戚)・知人が災害を経験した
- 3 自ら災害を経験していないが、災害に関する報道を見て避難のタイミングを決めることが必要と感じた
- 4 ひろしまマイ・タイムラインを作成した
- 5 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムラインを作成した
- 6 そのほかのマイ・タイムラインを作成した
- 7 防災訓練、防災教室に参加した
- 8 学校で防災について学習した
- 9 職場で防災について話があった
- 10 地域の方(個人・自主防災組織・消防団)から話があった
- 11 その他()

【全員にお尋ねします。】

問 12 広島県や各マスコミでは、「あなたが避難することが、みんなの命を救うことにつながります」というメッセージを使用して避難を呼びかけていますが、あなたは、このことを知ったり、聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らない

Ⅱ あなたの災害に対する備えや災害時の行動についてお尋ねします

問1 県では、平成27年4月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。下記の5つの行動目標を確認してお答えください。

(○は1つ)

- 1 行動目標を含めて、知っていた
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった
- 3 まったく知らなかった

※5つの行動目標

【災害から命を守るための行動】

1 「知る」

身の周りの災害危険箇所や災害の種類に応じた避難場所・経路の確認

2 「察知する」

危険を知らせる気象情報・避難情報を確認する。

3 「行動する」

災害から命を守るために自ら判断して適切に行動する。

【普段から災害に備えるための行動】

4 「学ぶ」

学校、職場、地域で行われる防災教室・防災訓練に参加する。

5 「備える」

非常持出品の準備。建物の耐震化や家具の転倒防止対策を進める。

※災害に備えて、自宅周辺の災害リスクを確認した上で、どのタイミングで、どこに避難するのかなど、あらかじめ決めておくもの

※下記に示したものはあくまでも一例です。このアンケートでは、「マイ・タイムライン」という名称でなくても、自宅周辺の災害リスクの確認、避難のタイミング、避難場所などをあらかじめ決めておくものは「マイ・タイムライン」に含みます。

※ひろしまマイ・タイムライン：「マイ・タイムライン」の一つで、県民の皆様に自宅周辺の災害リスクの確認、避難のタイミング、避難場所などをあらかじめ決めていただくため、広島県が普及に取り組んでいる。



【デジタル版】

<https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/mytimeline/>



※「QRコード」は（株）デンソーウェーブの登録商標です

※防災タイムライン：「マイ・タイムライン」をデジタル化したもので、スマートフォンを利用してYahoo!防災速報アプリで「マイ・タイムライン」を作成できる。

【防災タイムライン】



※このアンケートでは、「マイ・タイムライン」という名称でなくても、自宅周辺の災害リスクの確認、避難のタイミング、避難場所などを決めておくものは「マイ・タイムライン」に含みます。

(例) 広島市防災普及啓発ハンドブック「たちまち防災」の付録「わが家の避難シート」
NHK広島放送局が制作している「ポケット防災手帳」に掲載されている「風水害マイ・タイムライン」など



問2 あなたは、「マイ・タイムライン」を知っていましたか。(〇は1つ)

- 1 知っていた → 問3へ
- 2 知らなかった → 問4へ

【問2でマイ・タイムラインを「1 知っていた」と回答した方にお尋ねします。】

問3 あなたが知っていた「マイ・タイムライン」は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 ひろしまマイ・タイムライン (冊子版)
- 2 ひろしまマイ・タイムライン (デジタル版)
- 3 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムライン
- 4 その他 ()

【問3で「1 ひろしまマイ・タイムライン (冊子版)」「2 ひろしまマイ・タイムライン (デジタル版)」と回答した方にお尋ねします。】

問3-1 「ひろしまマイ・タイムライン」をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 県や市町の防災教室
- 5 県のSNS (ツイッター、フェイスブックなど)
- 6 県以外のSNS
- 7 子供が学校から持って帰ってきた
- 8 職場や学校
- 9 家族
- 10 地域の人
- 11 知人 (地域の人以外)
- 12 その他 ()

【問3で「3 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムライン」と回答した方にお尋ねします。】

問3-2 「防災タイムライン」をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 8 県のSNS(ツイッター、フェイスブックなど) |
| 2 テレビ・ラジオ | 9 県以外のSNS |
| 3 インターネット広告(ヤフー、グーグルなど) | 10 職場や学校 |
| 4 動画広告(ユーチューブ) | 11 家族 |
| 5 新聞の記事や特集 | 12 地域の人 |
| 6 新聞折り込みチラシ | 13 知人(地域の人以外) |
| 7 防災タイムラインの作成方法が記載されたチラシ | 14 その他() |

【新聞折り込みチラシ】



【作成方法が記載されたチラシ】



【全員にお尋ねします】

問4 あなたのご家庭では、マイ・タイムラインを作成していますか。あなたご自身でなくても、同居しているご家族のどなたかが作成している場合は「作成している」とお答えください。

※「マイ・タイムライン」という名称でなくても自宅周辺の災害リスクの確認、避難のタイミング、避難場所などを決めている方は、「1 作成している」を選択してください。

(〇は1つ)

- | | |
|-----------|--------|
| 1 作成している | → 問4-1 |
| 2 作成していない | → 問5へ |

【問4でマイ・タイムラインを「1 作成している」と回答した方にお尋ねします。】

問4-1 あなたが作成した「マイ・タイムライン」は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--|
| 1 ひろしまマイ・タイムライン(冊子版) | |
| 2 ひろしまマイ・タイムライン(デジタル版) | |
| 3 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムライン | |
| 4 その他() | |

【問４－１で「１ ひろしまマイ・タイムライン（冊子版）」「２ ひろしまマイ・タイムライン（デジタル版）」と回答した方にお尋ねします。】

問４－２ あなたが「ひろしまマイ・タイムライン」を作成しようと思ったきっかけは何ですか。
(○はいくつでも)

- １ 子供が学校から持って帰ってきたから、または子供が作りたいと言ったから
- ２ もともとマイ・タイムラインに関心があったから
- ３ 防災教室や防災講演会などで作ることを勧められたから
- ４ 広島県が作成を推奨していることを知ったから
- ５ 人から作成することを誘われたから
- ６ 災害に関する報道を見て必要だと思ったから
- ７ 引っ越しなどで環境が変わったから
- ８ その他（ ）

【問４－１で「１ ひろしまマイ・タイムライン（冊子版）」「２ ひろしまマイ・タイムライン（デジタル版）」と回答した方にお尋ねします。】

問４－３ 「ひろしまマイ・タイムライン」を作成してどう感じましたか。(○はいくつでも)

- １ 簡単に作成できた
- ２ 作成するのが大変難しかった
- ３ 作成するのに大変な時間がかかった
- ４ 災害が起こりそうなときに参考にしたら、適切な避難ができると感じた
- ５ 作成する過程で、防災に関するさまざまな知識を得た
- ６ 適切に作れているか不安である
- ７ 災害時に本当に役立つか疑わしい
- ８ その他（ ）

【問４－１で「３ Yahoo!防災速報アプリの防災タイムライン」と回答した方にお尋ねします。】

問４－４ Yahoo!防災速報アプリの防災タイムラインを作成してどう感じましたか。
(○はいくつでも)

- １ 簡単に作成できた
- ２ 作成するのが大変難しかった
- ３ 作成するのに大変な時間がかかった
- ４ 災害が起こりそうなときに参考にしたら、適切な避難ができると感じた
- ５ 作成する過程で、防災に関するさまざまな知識を得た
- ６ 適切に作れているか不安である
- ７ 災害時に本当に役立つか疑わしい
- ８ その他（ ）

【問4でマイ・タイムラインを「2 作成していない」と回答した方にお尋ねします。】

問5 作成しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 マイ・タイムラインを知らなかった
- 2 自宅が安全な場所にある
- 3 マイ・タイムラインを作成しなくても、自宅周辺の災害リスクや避難先、避難のタイミングなどは頭に入っている
- 4 マイ・タイムラインは知っていたが、自分が作成することは考えたことがなかった
- 5 マイ・タイムラインは知っていたが、具体的にどんなものかはよく分かっていなかった
- 6 マイ・タイムラインが役に立つかどうか分からなかった
- 7 興味はあったが、作成するのが面倒だった
- 8 興味はあったが、作成する時間がなかった
- 9 作成したかったが、どうやって教材を入手したら良いか分からなかった
- 10 調べてみると作成方法が難しそうだった
- 11 作成に必要なアカウント登録やIDの取得が煩雑だった
- 12 作り方が難しく途中で作成を諦めた
- 13 その他（ ）

【問4でマイ・タイムラインを「2 作成していない」と回答した方にお尋ねします。】

問5-1 あなたは、これからマイ・タイムラインを作成しようと思いますか。(〇は1つ)

- 1 作成しようと思う
- 2 作成する必要性がわからないので、作成しようと思わない
- 3 必要だと思うが、作成するのが面倒なので、作成しようと思わない
- 4 わからない

【全員にお尋ねします】

問6 あなたがお住まいの地域は、水害・土砂災害の危険性がありますか。お住まいが該当する区域に立地するかお答えください。(①、②各項目で〇は1つ)

	自宅が区域に 立地している	自宅は区域に 立地していない	分からない
① 洪水浸水想定区域	1	2	3
② 土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域	1	2	3

問7 あなたは、お住まいの地域で発生するおそれのある災害の危険性に応じた避難場所や避難経路の確認を行っていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|-------------|
| 1 | まったくしていない | → | 問7-1, 問7-3へ |
| 2 | 少しはしている | } | 問7-2, 問7-3へ |
| 3 | かなりしている | | |
| 4 | 十分にしている | | |

【問7で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問7-1 今後、「避難場所や避難経路の確認」をしようと思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----------|---|-------------|
| 1 | 今後しようと思う | 2 | 今後もしようと思わない |
|---|----------|---|-------------|

【問7で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問7-2 避難場所、避難経路はどのような方法で確認しましたか。(○はいくつでも)

- 1 市町が配布したハザードマップ
- 2 県のホームページや国や市町などのホームページ
- 3 スマートフォンなどに登録したアプリ (Yahoo!防災速報アプリ)
- 4 スマートフォンなどに登録したアプリ (ひろしま避難誘導アプリ「避難所へ Go!」)
- 5 スマートフォンなどに登録したアプリ (その他のアプリ)
- 6 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 7 地域の方 (個人, 自主防災組織, 消防団など) から教えてもらった
- 8 市役所 (町役場) の人から聞いた
- 9 防災教室や防災訓練
- 10 その他 ()

【全員にお尋ねします。】

問7-3 あなたは、避難する場所を複数か所決めていますか。また、避難場所までの避難経路の確認を行っていますか。なお、避難する場所は、市町が指定している避難場所でなくとも、安全な場所 (親族・知人宅, 宿泊施設など) であれば構いません。(○は1つ)

- 1 複数か所決めており、経路の確認も行っている
- 2 複数か所決めているが、経路の確認は行っていない
- 3 1か所だけ決めている
- 4 まったく決めていない

【全員にお尋ねします。】

問 10 あなたは、携帯電話・スマートフォンまたはタブレット端末を持っていますか。

(○は1つ)

- 1 スマートフォンまたはタブレット端末を持っている
- 2 携帯電話を持っており、メール機能も使用している
- 3 携帯電話を持っているが、メール機能は使用していない
- 4 いずれも持っていない

問 11 あなたは、県又は市町の防災情報メールや防災アプリなどの登録を行っていますか。

(○はいくつでも)

- 1 県や市町の防災メール
- 2 Yahoo!防災速報アプリ
- 3 NHK ニュース・防災アプリ
- 4 goo 防災アプリ
- 5 全国避難所ガイド アプリ
- 6 ひろしま避難誘導アプリ「避難所へ Go!」
- 7 その他 ()
- 8 登録していないが、今後しようと思う
- 9 登録していないし、今後もしようと思わない

} 問 11-1 へ

} 問 11-2 へ

【問 11 で「1～7」(登録している)と回答した方にお尋ねします。】

問 11-1 防災情報メール、防災アプリなどを登録した理由、きっかけは何ですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 10 県や市町のイベント |
| 2 テレビ・ラジオ | 11 マイ・タイムラインの作成 |
| 3 県や市町の広報誌 | 12 県や市町の防災訓練、防災教室 |
| 4 新聞の記事や特集 | 13 職場や学校 |
| 5 新聞折り込み広告 | 14 家族 |
| 6 防災情報メール・防災アプリを紹介したチラシ | 15 地域の人 |
| 7 インターネット広告 | 16 知人(地域の人以外) |
| 8 動画広告(YouTube) | 17 携帯電話・スマートフォン、タブレット端末等の販売店 |
| 9 ツイッターやフェイスブックなどの SNS | 18 その他 () |

【問 11 で「8 登録していないが、今後しようと思う」「9 登録していないし、今後もしようと思わない」と回答した方にお尋ねします。】

問 11-2 登録していない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 登録方法が分からないから | 5 通知の回数が多すぎるから |
| 2 登録方法が複雑で面倒だから | 6 防災以外に役立つ情報が少ないから |
| 3 住んでいる場所が安全なため登録する必要性がないから | 7 通信料がかかるから |
| 4 防災に関心がないから | 8 その他() |

【全員にお尋ねします。】

問 12 あなたは、避難するかどうかの判断をする際に、行政等が発する災害情報をどの程度参考にしますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 かなり参考にする | 3 どちらかといえば参考にしない |
| 2 どちらかといえば参考にする | 4 まったく参考にしない |

問 13 あなたは現在、3日分以上の食料や飲料水の備蓄を行っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|------------|
| 1 まったくしていない | → 問 13-1 へ |
| 2 少しはしている | } 問 13-2 へ |
| 3 かなりしている | |
| 4 十分にしている | |

【問 13 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-1 備蓄をしていないのは、なぜですか。(○はいくつでも)

- 1 親族宅などを避難先として考えており、備蓄する必要がないから
- 2 普段から食料品を多めに買い置きし、災害時に活用するつもりだから
- 3 自分で備蓄する経済的余裕がないから
- 4 何をどれくらい備えれば良いか分からないから
- 5 災害が起きても自分が被災する可能性が低いから
- 6 備えていても消費期限が来たら、無駄になるから
- 7 保管する十分なスペースがないから
- 8 3日間も食料や飲料水が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 9 災害時には行政が支給してくれると思っているから
- 10 その他()

【問 13 で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 13－2 「3 日分以上の食料や飲料水の備蓄」を行ったきっかけは、なんですか。

(○はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットや SNS
- 5 県や市町のイベント
- 6 県や市町の防災訓練、防災教室
- 7 ひろしまマイ・タイムラインの作成
- 8 Yahoo!防災速報（防災タイムライン）
- 9 職場や学校
- 10 家族・知人
- 11 スーパーやホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 12 避難した経験があるから
- 13 大きな災害があったから
- 14 その他（)

【全員にお尋ねします。】

問 14 あなたは、現在、食料と飲料水以外の非常持出品（携帯ラジオ、懐中電灯、携帯充電器など^(※)）の準備を行っていますか。(○は1つ)

※これらは例示なので、あなたご自身や、あなたのご家族が必要とする非常持出品を準備している場合は「している」（2～4のいずれか）を選択してください。

- | | | |
|-------------|---|----------|
| 1 まったくしていない | → | 問 14－1 へ |
| 2 少しはしている | } | 問 15 へ |
| 3 かなりしている | | |
| 4 十分にしている | | |

【問 14 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 14－1 準備をしていないのは、なぜですか。（○はいくつでも）

- 1 親族宅などを避難先として考えており、準備する必要がないから
- 2 自分で準備する経済的余裕がないから
- 3 何をどれくらい備えればよいか分からないから
- 4 災害が起きても自分が被災する可能性が低いから
- 5 備えていても使用期限が来たら、無駄になるから
- 6 保管する十分なスペースがないから
- 7 物資を入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 8 災害時には行政が支給してくれると思っているから
- 9 その他（ ）

【全員にお尋ねします。】

問 15 あなたは、「ローリングストック」^(※)を知っていましたか。（○は1つ）

※ローリングストック：日常生活の中で普段食べている食料品を多めに買い置きし、使いながら使った分を買い足し、備える備蓄方法のこと。消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の賞味期限切れのおそれも少なくなり、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができる。

- 1 知っていたし、普段の生活でローリングストックを実施している → 問 15－1 へ
- 2 知っていたが、実施はできていない → 問 15－1 へ
- 3 知らなかった → 問 16 へ

【問 15 で「1 知っていたし、普段の生活でローリングストックを実施している」「2 知っていたが、実施はできていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 15－1 「ローリングストック」をどこで知りましたか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 8 県以外の SNS |
| 2 テレビ・ラジオ | 9 職場や学校 |
| 3 県や市町の広報誌 | 10 家族 |
| 4 インターネット（広島県「みんなで減災」はじめての－歩） | 11 地域の人 |
| 5 インターネット（その他のウェブサイト） | 12 知人（地域の人以外） |
| 6 備えるフェア ^(※) | 13 その他（ ） |
| 7 県の SNS | |

※ 備えるフェア：非常持出品や備蓄品、家具の転倒防止対策など、いつどこで起きるか分からない、大雨や地震などの「災害への備え」を県民に促すため、県が毎年3月と9月に県内の小売店舗で行っている防災グッズや関連商品のPRなどを行う取組

【全員にお尋ねします。】

問 16 あなたが、過去 1 年間に、ご自宅で防災について学んだり、地域、職場、あるいは学校で、防災教室や防災訓練等に参加した内容をお答えください。(○はいくつでも)

- 1 地域の防災教室や防災訓練等
- 2 職場、または学校の防災教室や防災訓練等
- 3 県が実施している6月の「一斉防災教室※¹」，または，11月の「一斉地震防災訓練※²」
- 4 マイ・タイムラインの作成を通じて学んだ
- 5 防災に関する講演会やイベント等で学んだ
- 6 防災について取り上げたテレビ番組で学んだ
- 7 防災について取り上げた新聞，雑誌，チラシ等で学んだ
- 8 インターネットで学んだ
- 9 スマートフォンなどに登録したアプリで学んだ
- 10 近所同士・仲間などの集いの場で，防災について話合った
- 11 家族で防災について話合った
- 12 その他（ ）
- 13 上記のいずれにも参加していない → 問 16-1へ

※1 一斉防災教室：県が作成した教材をもとに災害危険箇所，避難場所及び避難経路の確認や状況に応じた避難行動などを身につけていただくため，昨年5～6月にかけて行った取組

※2 一斉地震防災訓練：県が作成した教材をもとに，昨年11月に行った，地震から命を守るための行動をとる訓練

【問 16 で「13 上記のいずれにも参加していない」と回答した方にお尋ねします。】

問 16－1 防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

- 1 防災教室や防災訓練等は、時間が長いため
- 2 以前参加したことがあり、内容についてはすでに理解しているから
- 3 敷居が高く、参加しにくい雰囲気があるから
- 4 参加する必要性がないから
- 5 関心がないから
- 6 具体的にどのようなことをするものなのか分からないから
- 7 参加者が限定されているから
- 8 参加しても、いざというときに役立つかどうか疑わしいから
- 9 仕事や家事、育児で忙しかったから
- 10 新型コロナ等感染症の感染が怖いから
- 11 その他（ ）
- 12 実施していることを知らなかったから
- 13 地域で開催されていないから

【全員にお尋ねします。】

問 17 あなたは、今現在、家具などの転倒の防止^(※)を行っていますか。（○は 1 つ）

※家具などの転倒の防止…金具や突っ張り棒、ベルト等による家具固定、転倒防止板の挟み込みなどによる対策のほか、寝室にはできるだけ家具を配置しないなど、地震によって家具等の下敷きにならないための備えも含む

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 まったくしていない | → 問 17－1、問 17－2 へ |
| 2 少しはしている | } 問 17－3 へ |
| 3 かなりしている | |
| 4 十分にしている | |

【問 17 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 17－1 家具などの転倒防止を行っていないのはなぜですか。（○はいくつでも）

- 1 倒れそうな家具等は置いておらず転倒の防止を行う必要がないから
- 2 どのようにすればよいか分からないから
- 3 大きな地震が起こるかどうか分からないから
- 4 手間や費用がかかるから
- 5 実際に効果があるかどうか分からないから
- 6 倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障がないところに置いてあるから
- 7 地震は起こらないと思っているから
- 8 住まいが賃貸住宅であるため、手を加えることができないから
- 9 その他（ ）

【問 17 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 17-2 今後、家具などの転倒防止を行おうと思いますか。(○は1つ)

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

【問 17 で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 17-3 家具などの転倒の防止を行ったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットや SNS
- 5 県や市町のイベント
- 6 県や市町の防災教室、防災訓練
- 7 職場や学校
- 8 家族
- 9 地域の人
- 10 知人(地域の人以外)
- 11 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 12 避難した経験があるから
- 13 大きな災害があったから
- 14 その他()

Ⅲ あなたのことについてお尋ねします

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- 1 男性 2 女性 3 その他

問2 あなたの年齢はいくつですか。(令和5年2月1日時点)

() 歲

問3 令和5年2月1日時点で、あなたはどちらにお住まいでしたか。

	市区町	町丁目・大字くらいまでお書きください	丁目 大字
--	-----	--------------------	----------

問4 主としてどのような生活形態ですか。(○は1つ)

- 1 企業・団体等で勤務している（正規の従業員、パート、派遣社員など）
- 2 自営業を営んでいる、または手伝っている
- 3 農・林・漁業を営んでいる、または手伝っている
- 4 家事や育児、または介護などで在宅している
- 5 学生
- 6 定年退職などで在宅している
- 7 その他（ ）

問5 現在のあなたの世帯の人数はあなたを含め何人ですか。

()人

問6 現在、あなたご自身を含め、同居しているご家族の中に、次の方やペットがいますか。

(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|----------|----|--------------------|
| 1 | 80 歳以上の人 | 9 | 小学 1 年生 |
| 2 | 高校生 | 10 | 未就学児童（3～5 歳） |
| 3 | 中学生 | 11 | 乳児（3 歳未満） |
| 4 | 小学 6 年生 | 12 | 障がいのある人もしくは体が不自由な人 |
| 5 | 小学 5 年生 | 13 | 病気の人 |
| 6 | 小学 4 年生 | 14 | ペット |
| 7 | 小学 3 年生 | 15 | いずれもない |
| 8 | 小学 2 年生 | | |

(○は1つ)